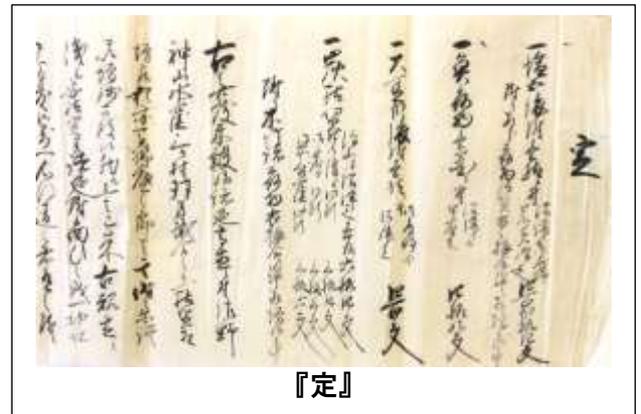


須山村は山林が多く、山稼ぎが盛んに行われていました。大野原にはかつての巨木が数多く埋まっていたようで、寛政元年（1789）に『掘り木願い』が出されています。具体的には、「当村の林の内大沢入茅野という場所で埋まっている杉を掘り出し、四分板にして仙石原方面で売りたい。板 100 枚につき銭 312 文ずつ上納します。」と記されています。享和 2 年（1802）の『炭焼き願い』では、「炭竈 2 口を仕立て、1 年に 1750 俵を焼き十里木新田を通り吉原宿に津出しします。6 貫目の炭 1 俵につき銭 10 文、合計 29 貫 164 文ずつ毎年運上金を先納します。」と願い出しています。



『炭焼き願い』

貞享 3 年（1686）の記録に馬 137 頭と記載されており、農耕用というより運送用に使われていたと考えられます。近辺には沼津から竹之下を経て相模に至る旧東海道の足柄路があり、また間道として吉原方面より十里木を経て甲州・相模方面への十里木街道がありました。万延 2 年（1861）、佐野村・水窪村・神山村から今里村・深山（須山）村・下和田村に出された『定』が残っています。これによると「物価高に伴い、駄賃を値上げすることになった。この定を破り安駄賃の仕事をした場合は駄賃稼ぎを差し止める。」と申し送っています。



『定』

これらの他に須山村の人々の生活を支えたものは、夏季を中心とした富士登山に関係した仕事でした。

須山村の概況について 貞享 3 年(1686)の『駿州駿河郡御厨領須山村御指出帳』より

村高	149 石 2 斗 9 升 1 合	反別	26 町 4 反 9 畝 10 歩
戸数	120 軒 (内 十里木新田 11 軒)		
人口	705 人 男 387 人 女 316 人 住持 1 人 隠居 1 人 (内 十里木新田 47 人 男 24 人 女 23 人)		
馬数	137 頭 (内 十里木新田 3 頭)	牛数	27 頭 (内 十里木新田 3 頭)

須山浅間神社と富士山信仰

平安時代初期に富士山の噴火が続いたことにより、その怒りを鎮めようとふもとに浅間神社が建立されました。祭神は木花開耶姫命このはなさくやひめのみことです。須山浅間神社には、大永 4 年（1524）と慶長 16 年（1611）の棟札が残されており、周辺の浅間神社に残されている棟札の中で最も古いものになります。そのため、須山口登山道とともに富士山世界遺産の構成資産となっています。

境内には樹齢 500 年ともいわれる杉の神木があり、他の巨木とともに社叢を成し、荘厳な雰囲気かみちを醸し出しています。須山浅間神社はかつて栄えた須山口登山道の起点となっていました。



須山浅間神社